

【晉紀十】 起玄默涪灘，盡昭陽作噩，凡二年。

■西晉、▲慕容氏、統国訳漢文大成. 経子史部 第 5 卷 255p

孝懷皇帝下永嘉六年（壬申，312年）

漢春，正月，漢の呼延后は卒す，諡して武元と曰う。

漢漢の鎮北將軍の靳沖、平北將軍の卜瑒は并州を寇す。辛未（19日），晉陽を圍む。

漢【劉聰の後宮の賑々しさ】甲戌（22日），漢主の聰は司空の王育、尚書令の任顗の女を以て左、右昭儀と為し，中軍大將軍の王彰、中書監の范隆、左僕射の馬景の女を夫人と為し，右僕射の朱紀の女を貴妃と為し，皆な金印紫綬す。聰は將に太保の劉殷の女を納れんとし，太弟の乂は固く諫める。聰は以て太宰の延年、太傅の景に問い，皆な曰く、

「太保は自ら劉康公之後を雲う，陛下と源を殊にし，之を納れるは何の害あるや！」（周の卿士にして采を劉の食み劉氏を名乗るが、劉聰は元々匈奴で漢の弟として劉氏を名乗るが、出自は異なる）

聰は悦び，殷の二女の英、娥を拜して左、右の貴嬪と為し，位は昭儀の上に在り。（5-256p）又た殷の女孫の四人を納れ皆な貴人と為し，位は貴妃に次す。是に於いて六劉之寵（六人の殷氏の女たち）は後宮を傾け，聰は復た外に出るは希なり，事は皆な中黃門が奏決す。

■【新野の胡亢反乱】故の新野の王歆の牙門將の胡亢は衆を竟陵に聚め，自ら楚公と號し，荆土を寇掠し，歆の南蠻司馬の新野の杜曾を以て竟陵太守と為す。曾は勇は三軍に冠たり，能く甲を被りて水中に遊ぶ。

### 【石聰は大雨で壽春攻略失敗】

■二月，壬子（1日、元嘉暦で三月の朔は壬子）朔，日食之れ有り。

漢【石勒は建業攻略体制】石勒は壘を葛陂（河南省汝海道新蔡県、現・駐馬店市新蔡県西北七十里）に築き，農を課し舟を造り，將に建業を攻めんとする。琅邪王の睿は大いに江南之衆を壽春に集め，鎮東（司馬睿は鎮東大將軍）長史の紀瞻を以て揚威將軍と為し，諸軍を都督し以て之を討たしむ。

漢【大雨下の撤退作戦議論】會々大雨し，三月止まず，勒の軍中は饑え疫し，死者は太半なり，晉軍の將に至らんとするを聞き，將佐を集めて之を議す。右長史の刁膺は先ず睿に款を送り，河朔を掃平して以て自ら贖うを求め，其の軍の退くを俟ち，徐に更に之を圖らんと請い，勒は愀然（厳しい顔つき）として長嘯（声を長く引いて、詩歌を吟じる）す。中堅將軍（石勒の置く將軍）の夔安は高きに就きて水を避けるを請い，勒は曰く、

「將軍は何ぞ怯なる邪！」

孔萇等三十餘將は各々兵を將いて，分道して夜に壽春を攻め，吳將の頭を斬り，其の城に據り，其の粟を食するを請う。要らず今年を以て丹楊を破り，江南を定めんと。勒は笑いて曰く、

「是れ勇將之計也！」

各々鎧馬一匹を賜わる。顧みて張賓に謂って曰く、

「君に於いては意は何如や？」

賓は曰く、

「將軍は攻めて京師を陥とし、天子を囚執し、王公を殺害し、妃主を妻略す。將軍之發(髮)を擢くとも、以て將軍之罪を數めるに足らず(髮を抜いて罪を數えても足りない位多い罪)、奈何ぞ復た相臣として奉ずる乎！去年は既に王彌を殺し、當に此に來たるべからず。今日は霖雨を數百里の中に降らし、將軍に應に此に留まるべからざるを示す也。鄴は三台(銅雀台、金雀台、米井台)之固め有り、西に平陽に接し(漢の首都に近い)、山河は四塞す、宜しく北に徙りて之に據り、以て河北を經營し、河北が既に定まれば、天下は將軍之右に處る者無し矣。晉之壽春を保つは、將軍の往きて之を攻めるを畏る耳(胡三省曰く、古より東南に國するものは率ね多く自ら保つの計を為す、亦自ら其の力を以て進むに足らずを量ればなり)。彼は吾が去るを聞けば、自ら全くするを喜ぶのみ、何の追いて吾が後ろを襲いて、吾が不利を為す暇あらん邪！將軍は宜しく輜重をして北道より先ず發せしめ、將軍は大兵を引いて壽春に向かい。輜重既に遠ざかれば、大兵は徐おもむろに還れば、何の進退するに地無きを憂えん乎？」

勅は袂を攘はらいて髯を鼓して曰く、  
「張君の計は是也！」

刁膺を責めて曰く、

「君は既に相輔佐し、當に共に大功を成すべし、奈何ぞ遽にわかに孤に降るを勧めるや！此の策は應に斬るべし！然れども素より君の怯なりを知れば、特に相宥す耳。」

是に於いて膺を黜けて將軍と為し、賈ぬきを擢んで右長史と為し、號して「右侯」と曰う。

漢 [石虎の陽動作戦、紀瞻は追わず] 勅は兵を引いて葛陂を發し、石虎を遣わして騎二千を帥いて壽春に向わしめ、晉の運船に遇い、虎の將士は争いて之を取り、紀瞻の敗る所と為る。瞻は追いて百里を奔り、(5-257p) 前みて勅の軍に及び、勅は陳を結びて之を待つ。瞻は敢えて撃たず、退きて壽春に還る。

漢 [劉聰は帝に小劉貴人を妻す] 漢主の聰は帝を封じて會稽郡公と為し、儀同三司を加える。聰は從容として帝に謂って曰、

「卿は昔は豫章王と為り、朕は王武子(王濟の字)と卿に造り、武子は朕を卿に稱す、卿は其の名を聞くに久しと言う矣、朕に柘弓銀研(柘の木の弓と銀の硯)を贈れり、卿は頗る記するや否や？」

帝は曰く、

「臣は安んぞ敢えて之を忘れんや？但だ恨むは爾その日早く龍顔を識らざるを！」

聰は曰く、

「卿の家の骨肉は何ぞ相殘そこなうに此くの如きや？」

帝は曰く、

「大漢は將に天に應じて命を受けんとす、故に陛下の為に自ら相驅除す、此れ殆んど天意なりて、人事に非ざる也！且つ臣の家が若し能く武皇帝之業を奉じ、九族が敦睦すれば、陛下は何に由りてか之を得んや！」

聰は喜び、小劉貴人を以て帝めあわに妻して、曰く、

「此れ名公の子孫(続は孫)也、卿は善く之を遇せ。」

代 代公の猗盧は兵を遣わして晉陽(現・太原市晉源区)を救い、三月(元嘉曆四月)、乙未(14日)、漢兵は敗走す。卜珽之卒は先ず奔り、斬沖ほしいままは擅に珽を収めて、之を斬る。聰は大いに怒り、遣使して節を持って沖を斬らしむ。

**漢**聰は其の舅の子の輔漢將軍の張寔(涼州の張軌の子の張寔とは別人)の二女の徽光、麗光を納めて貴人と為す、太后の張氏(劉淵の側室で聰を生む)之意也。

**前涼** [前涼は長安支援軍派遣へ] 涼州の主簿の馬飴は張軌に説く、

「宜しく命じて將に師を出し、帝室を翼戴すべし。」

軌は之に従い、檄を關中に馳せ、共に秦王を尊輔し、且つ言う、

「今前鋒督護の宋配を遣わして歩騎二萬を帥いて、逕ちに長安に趨かしめん。西中郎將の寔をして中軍三萬を帥い、武威太守の張琬をして胡騎二萬を帥い、絡繹(人馬の往来等絶え間なく続く、連絡駅)として繼いで發せん。」

■夏、四月(元嘉曆五月)、丙寅(16日)、征南將軍の山簡は卒す。

**漢**漢主の聰は其の子の敷を封じて渤海王と為し、驥を濟南王と為し、鸞を燕王と為し、鴻を楚王と為し、勳を齊王と為し、權を秦王と為し、操を魏王と為し、持を趙王と為す。

**漢** [王彰は劉聰の側近誅殺を諫める] 聰は魚蟹の供せざるを以て、左都水使者の襄陵の王據を斬る。溫明、徽光の二殿を作りて未だ成らず、將作大匠の望都公の斬陵を斬る。漁を汾水に觀て、昏夜まで歸らず。中軍大將軍の王彰は諫めて曰く、

「比<sup>このごろ</sup>陛下の為す所を觀るに、臣は實に心を痛め首を疾む。今愚民の漢に歸す之志は未だ専らならず、晉を思う之心は猶ほ甚し。劉琨は咫尺(非常に近い)にあり、刺客は縱横する。帝王が輕々しく出れば、一夫の敵する耳。願わくは陛下は往を改め來るを修めれば、則ち億兆は幸甚す！」

聰は大いに怒り、命じて之を斬らしむ。王夫人(王彰の女)は叩頭して哀を乞い、乃ち之を囚える。太后の張氏は聰の刑罰の差が過ぎるを以て、三日食せず。太弟の乂、單于の桀は欄<sup>ひつぎ</sup>を輿<sup>にな</sup>いて切諫す。聰は怒りて曰く、

「吾は豈に桀、紂ならんや、而して汝が輩は生きながら來たりて人を哭すや！」

太宰の延年、太保の殷等公卿、列侯百餘人は、皆な冠を免ぎ涕泣して曰く、

「陛下は功高く徳厚く、曠世比べるは少なく、往なる也唐、虞、今は則ち陛下なり。(5-258P) 而して頃來小小の供せざるを以て、亟かに王公を斬る。直言して旨に忤い、遽に大將を囚る。此れ臣等は竊に未だ解せざる所なり、故に相い與に之を憂い、寢と食とを忘れる。」

聰は慨然として曰く、

「朕は昨は大いに酔い、其の本心に非らず、公等が之を言うに微ならば、朕は過ちを聞かざるなり。」

各々賜わるに帛百匹、侍中をして節を持し彰を赦さ使めて曰く、

「先帝は君に頼ること左右の手の如く、君は勳を再世に著し、朕は敢えて之を忘れんや！此の段之過ちは、君が蕩然たるを希う。君は能く懷いを盡くして國を憂うるは、朕の望む所也。今君を驃騎將軍、定襄郡公に進め、後に逮ばざる有れば、幸いに數々之を匡せ！」

**漢** [趙固と王桑は石勒を恐れ、劉琨に降る] 王彌は既に死し(前卷前年)、漢の安北將軍の趙固、平北將軍の王桑は石勒の并せる所と為るを恐れ、兵を引いて平陽に歸らんと欲す。軍中糧は乏しく、士卒は相い食み、乃ち[石交] 礪津(山東省東臨道旧東昌府内の渡津、現・聊城市東昌府区)より西に渡り、河北の郡縣を攻掠する。劉琨は其の兄の子の演を以て魏郡太守と為し、鄴に鎮せしめ、固(続には無し)、桑は演が之を邀えるを恐れ、長史の臨深を遣わして琨の質と為す。琨は固を以て雍州刺史と為し、桑を豫州刺史と為す。

■**漢** **[賈疋は長安の劉曜を破り、劉曜は平陽逃亡]** **賈疋**等は長安を圍むこと數月、漢の中山王の**曜**は連戦して皆な敗れ、士女八萬餘口を驅掠し、平陽に奔る。秦王の**業**は雍より長安に入る。**五月**、漢主の**聰**は**曜**を貶して龍驤大將軍と為し、大司馬を行わしむ。**聰**は河内王の**粲**をして**傅祗**を三渚（河南省河北道孟県、現・焦作市孟州市）に攻め、右將軍の**劉參**をして**郭默**を懷に攻め使む。會々**祗**は病して薨じ、城は陥ち、**粲**は**祗**の子孫並びに其士民二萬餘戸を平陽に遷す。

**漢** **六月**、漢主の**聰**は貴嬪の**劉英**を立てて**皇后**と為さんと欲す。**張太后**は貴人の**張徽光**を立てんと欲し、**聰**は已むを得ず、之を許す。**英**は尋いで卒す。

**漢** **[漢の重鎮劉殷は卒す]** 漢の大昌文獻公の**劉殷**は卒す。**殷**は相と為り、顔を犯し旨に忤さからわず、然るに事に因りて規を進め、補益すること甚だ多し。漢主の**聰**は群臣と政事を議する毎に、**殷**は是非する所無し。群臣は出で、**殷**は獨り留まり、**聰**の為に條理を敷暢し、事宜を商榷（商は度る、榷は大略を挙げる）す、**聰**は未だ嘗て之に従わざるあらず。**殷**は常に子孫を戒めて曰く、

「君に事えるは當に幾諫（微を見て諫める）を務めるべし。凡人すら尚ほ其の過ちを面斥する可からず、況んや萬乘を乎！夫れ幾諫之功は、顔を犯すに異なる無し、但だ君之過ちを彰さず、優れると為す所以耳。」官は侍中、太保に至り、尚書を録し、劍履上殿を賜わり、入朝して趨せず、乘輿して入殿す。然るに**殷**は公卿の間に在るや、常に恂恂として卑讓之色有り、故に能く驕暴之國に處り、其の富貴を保ち、令名を失わず、壽考を以て自ら終わる。

**漢** 漢主の**聰**は河間王の**易**を以て車騎將軍と為し、彭城王の**翼**を衛將軍と為し、並びて典兵宿衛とする。高平王の**悝**を征南將軍と為し、離石（西晉の西河国離石県、現・山西省呂梁市離石区）に鎮ぜしむ。濟南王の**驥**を征西將軍と為し、**(5-259p)** 西平（平陽の西、山西省河東道臨汾県、現・臨汾市堯都区）城を築きて以て之に居らしむ。魏王の**操**を征東將軍と為し、蒲子（山西省河東道隰県、現・臨汾市隰県）に鎮ぜしむ。

**漢** **[趙固は漢に歸し洛陽駐屯]** **趙固**、**王桑**は懷より迎えを漢に求め、漢主の**聰**は鎮遠將軍の**梁伏疵**を遣わして兵を將いて之を迎わしむ。未だ至らずして、長史の**臨深**、將軍の**牟穆**は衆一萬を帥いて叛して**劉演**に歸す。**固**は**疵**に隨いて而して西し、**桑**は其の衆を引いて東に青州に奔り、**固**は兵を遣わして追いて之を曲梁（廣平郡に治す、直隸省大名道永年県、現・邯鄲市永年区）に殺し、**桑**の將の**張鳳**は其の餘衆を帥いて**演**に歸す。**聰**は**固**を以て荊州刺史と為し、河南太守を領せしめ、洛陽に鎮す。

**漢** **[石勒は枋頭から鄴に進出]** **石勒**は葛陂より北に行き、過ぎる所は皆な堅壁清野にして、虜掠して獲る所無く、軍中は饑甚だしく、士卒は相い食む。東燕（河南省河北道延津県の東、現・新郷市延津県）に至り、汲郡の**向冰**が衆數千を聚めて枋頭（河北道浚県、現・安陽市鶴壁市浚県）に壁すと聞き、**勒**は將に河を濟らんとし、**冰**が之を邀えるを恐れる。**張賓**は曰く、

「**冰**の船は盡く瀆中に在りて未だ上がらずと聞く、宜しく輕兵を遣わして間道して襲い取り、以て大軍を濟し、大軍が既に濟れば、**冰**は必ず擒とす可き也。」

**秋**、**七月**、**勒**は**支雄**、**孔萇**をして文石津（河南省河北道浚県、現・安陽市鶴壁市浚県）より筏を縛して潜かに渡ら使めて、其の船を取る。**勒**は兵を引いて棘津（文石津の黄河上流）より河を濟り、**冰**を撃ち、大いに之を破り、盡く其の資儲を得、軍勢は復た振り、遂に長驅して鄴に至る。**劉演**は三台を保ちて以て自ら固め、**臨深**、**牟穆**等は復た其の衆を帥いて**勒**に降る。

**漢** **[勒は遂に襄國に據る]** 諸將は三台を攻めんと欲し、**張賓**は曰く、

「**演**は弱しと雖も、衆は猶ほ數千あり、三台は險固にして、之を攻めるは未だ猝にわかに抜くは易からず。捨てて而して之を去れば、彼は將に自ら潰えんとする。方今**王彭祖**（王浚の字）、**劉越石**（劉琨の字）は、公之大

敵也、宜しく先ず之を取り、**演**は顧みるに足らず也。且つ天下は饑亂し、明公は大兵を擁すると雖も、遊行し羈旅にして、人は定まった志は無し、萬全を保ち、四方を制する所以に非らざる也。若かず便地を擇び而して之に據り、廣く糧儲を聚め、西の平陽に稟<sup>まお</sup>し以て幽（王浚が領す）、并（劉琨に領す）を圖らんには、此れ霸王之業也。邯鄲（直隸省大名道邯鄲県、現・邯鄲市）、襄國（直隸省大名道邢臺県、現・邢台市襄都区）は、形勝之地なり、請う一を擇びて而して之に都すべし。」

勅は曰く、

「右侯之計は是也。」

遂に進みて襄國に據る。

**漢** **劉聰は石勒を冀幽并營四州諸軍事** **賓**は復た勅に言つて曰く、

「今吾は此に居り、**彭祖**、**越石**は深く忌む所也、恐らくは城塹は未だ固からず、資儲は未だ廣からず、二寇は交々至らん。宜しく亟かに野谷を收め、且つ遣使して平陽に至り、具に此に鎮する之意を陳べるべし。」

勅は之に従い、諸將に分命して冀州を攻め、郡縣の壁壘は多く降り、其の穀を運んで以て襄國に輸す。且つ漢主の**聰**に表し、**聰**は**勅**を以て都督冀、幽、并、營四州諸軍事、冀州牧と為し、進めて上黨公に封ず。

■ **劉琨の母は豪傑を駕御出来ずと指摘** **劉琨**は檄を州郡に移し、十月を以て平陽に會して、漢を撃たんと期す。**琨**は素より奢豪にして、(5-260p) 聲色を喜ぶ。河南の**徐潤**は音律を以て幸を**琨**に得、**琨**は以て晉陽令と為す。**潤**は驕恣にして、政事に干預す。護軍の令の**狐盛**は數々以て言を為し、且つ**琨**に之を殺すを勧め、**琨**は従わず。**潤**は**盛**を**琨**に譖し、**琨**は**盛**を收め、之を殺す。**琨**の母は曰く、

「汝は豪傑を駕御し以て遠略を恢<sup>お</sup>くする能わず、而して専ら己に勝つを除けば、禍いは必ず我に及ばん。」

**漢** **劉粲・劉曜は劉琨の晉陽を取る** **盛**の子の**泥**は漢に奔り、具に虚實を言う。漢主の**聰**は大いに喜び、河内王の**粲**、中山王の**曜**を遣わして兵を將いて并州を寇し、以て**令狐泥**をして郷導と為す。**琨**は之を聞き、東に出で、兵を常山及び中山に收め、其の將の**郝詵**、**張喬**をして兵を將いて**粲**を拒ませ、且つ遣使して救いを代公の**猗盧**に求めしむ。**詵**、**喬**は俱に敗死す。**粲**、**曜**は虚に乗りて晉陽を襲い、太原太守の**高喬**、并州別駕の**郝聿**は晉陽を以て漢に降る。**八月**、庚戌（1日）、**琨**は還りて晉陽を救うも、及ばず、左右數十騎を帥いて常山に奔る。辛亥（2日）、**粲**、**曜**は晉陽に入る。壬子（3日）、**令狐泥**は**琨**の父母を殺す。

**漢****粲**、**曜**は尚書の**盧志**、侍中の**許遐**、太子の右衛率の**崔瑋**を平陽に送る。**聰**は復た**曜**を以て車騎大將軍と為し、前將軍の**劉豐**を以て并州刺史と為し、晉陽に鎮せしむ。**九月**、**聰**は**盧志**を以て太弟の太師と為し、**崔瑋**を太傅と為し、**許遐**を太保と為し、**高喬**、**令狐泥**は皆な武衛將軍と為す。

**漢**己卯（1日）、漢の衛尉の**梁芬**は長安に奔る。

■ **長安の賈疋と太子業** 辛巳（3日）、**賈疋**等は秦王の**業**を奉じて皇太子と為し、行台を長安に建て、壇に登り告類（攝し即位の時に天を祭る）し、宗廟、社稷を建て、大赦す。**閻鼎**を以て太子詹事（官僚統率役）と為し、百揆を總攝せしむ。**賈疋**に征西大將軍を加え、秦州刺史の南陽王の**保**を以て大司馬と為す。司空の**荀藩**に命じて遠近を督攝せしめ、光祿大夫の**荀組**に司隸校尉を領し、豫州刺史を行わしめ、**藩**と共に開封（河南省開封道開封県、現・開封市祥符区）を保たしむ。

■ **前涼**秦州刺史の**裴苞**は險に據りて以て涼州兵を拒み、**張寔**、**宋配**等は撃ちて之を破り、**苞**は柔凶塢に

奔る。

**漢** **[諸王の冊封と政治体制]** **冬、十月**、漢主の聰は其の子の恆を封じて代王と為し、暹を吳王と為し、朗を潁川王と為し、皐を零陵王と為し、旭を丹楊王と為し、京を蜀王と為し、坦を九江王と為し、晃を臨川王と為す；王育を以て太保と為し、王彰を太尉と為し、任顛司徒と為し、馬景を司空と為し、朱紀を尚書令と為し、范隆を左僕射と為し、呼延晏を右僕射と為す。

**代** **[代公猗盧は劉琨と晉陽の劉曜を撃破]** 代公の猗盧は其の子の六修及び兄の子の普根、將軍の衛雄、范班、箕澹を遣わして衆數萬を帥いて前鋒と為し以て晉陽を攻めしめ、猗盧は自ら衆二十萬を帥いて之に繼ぎ、劉琨は散卒數千を收めて之が為に郷導す。六修は漢の中山王の曜と汾東に戦い、曜の兵は敗れ、馬より墜ち、七創に中たる。討虜將軍の傅虎は馬を以て曜に授け、曜は受けず、曰く、

「卿は當に乗りて以て自ら免るべし、吾が創は已に重く、自ら此に死すを分とす。」

虎は泣いて曰く、

「虎は大王の識拔を蒙りて此に至り、常に命を效さん<sup>もとい</sup>を思い、(5-261p) 今は其の時矣。且つ漢室は初めて基す、天下は虎無かる可く、大王は無かる可からざる也！」

乃ち曜を扶けて馬に上らしめ、驅りて汾を渡ら令め、自ら還りて戦死す。曜は晉陽に入り、夜、大將軍の粲、鎮北大將軍の豐と晉陽之民を掠め、蒙山(山西省冀寧道平定県、現・陽泉市平定県)を逾え而して歸る。**十一月**、猗盧は之を追い、藍谷(蒙山の西南)に於いて戦い、漢兵は大敗し、劉豐は擒となり、邢延(劉琨に叛くは前卷五年)等三千餘級を斬り、屍の伏すは數百里なり。猗盧は因りて大いに壽陽山(山西省冀寧道壽陽県、現・晋中市壽陽県)に獵し、皮肉を陳闕し、山は之が為に赤となる。劉琨は營門より歩いて入りて拜謝し、固く進軍するを請う。猗盧は曰く、

「吾は早く來たらず、卿の父母の害せ見るるを致し、誠に以て相い愧<sup>は</sup>じる。今卿は已に州境を復す、吾は遠來して、士馬は疲弊す、且く後舉を待たん、劉聰は未だ滅ぼす可からざる也。」

琨に馬、牛、羊各々千餘匹、車百乘を遣わして而して還り、其の將の箕澹、段繁等を留めて晉陽を戍らしむ。

■琨は徙りて陽曲(太原郡の県、山西省冀寧道陽曲県、現・太原市陽曲県)に居り、亡散を招集す。盧諶は劉粲の參軍為り、亡げて琨に歸し、漢人は其の父の志及び弟の謚、誅を殺す。傅虎に幽州刺史を贈る。

**漢** **十二月**、漢主の聰は皇后の張氏を立て、其の父の寔を以て左光祿大夫と為す。

■ **[彭天護は賈疋を殺し、麴允・索綝は閬鼎を攻める]** 彭仲蕩(賈疋に殺されるは前卷五年)之子の天護は群胡を帥いて賈疋を攻め、天護は陽<sup>いっつわ</sup>りて勝たず而して走り、疋は之を追い、夜に澗中に墜ち、天護は執り而して之を殺す。漢は天護を以て涼州刺史と為す。衆は始平太守の麴允を推して雍州刺史を領せしむ。閬鼎は京兆太守の梁綜と權を争い、鼎は遂に綜を殺す。麴允は撫夷護軍の索綝(?-316年、字は巨秀。敦煌出身。後將軍索靖第5子)、馮翊太守の梁肅と兵を合わせて鼎を攻め、鼎は出でて雍に奔り、氏の寶首の殺す所と為る。

■ **漢** **[王浚と石勒の激突]** 廣平の游綸、張豺は衆數萬を擁し、苑郷(直隸省大名道任県、現・邢台市任沢区)に據り、王浚の假署(制を承けて權に官職に補署)を受ける。石勒は夔安、支雄等七將を遣わして之を攻めしめ、其の外壘を破る。浚は督護の王昌を遣わして諸軍及び遼西公の段疾陸眷、疾陸眷の弟の匹磾、文鸯、從弟の末杯の部衆五萬を帥いて勒を襄國に攻めしむ。

■ **漢** **[石勒は突門を設けて末杯を撃退]** 疾陸眷は渚陽に屯し、勒は諸將を遣わして出でて戦い、皆な疾陸眷の敗る所と為る。疾陸眷は大いに攻具を造り、將に城を攻めんとし、勒の衆は甚だ懼れる。勒は將佐

を召して之を謀りて曰く、

「今城塹は未だ固からず、糧儲は多からず、彼は衆く我は寡なり、外に救援無く、吾は衆を悉くして之と決戦せんと欲すが、何如や？」

諸將は皆な曰く、

「堅守して以て敵を疲らせ、其の退くを待ち而して之を撃つに如かず。」

張賓、孔萇は曰く、

「鮮卑之種、段氏は最も勇悍と為し、而とて末杯は尤も甚し、其の銳は卒に皆な末杯の所に在り。今聞くに疾陸眷は日を刻して北城を攻めんとすと。其の大衆は遠來して、戰鬥は連日なり、謂うに我は孤弱にして、敢えて出でて戦わざれば、意は必ず懈惰せんとす。宜しく且く出る勿かれ、之に示すに怯を以てし、北城を鑿ちて突門（突撃用の突出門）二十餘道を為り、其の來たり至りて、(5-262p) 列守未だ定まらずを俟ち、其の不意に出れば、直ちに末杯の帳を衝き、彼は必ず震駭し、計を為す暇あらず、之を破るは必ず矣。末杯が敗れば、則ち其の餘は攻めず而して潰えん矣。」

勒は之に従い、密に突門を為る。既に而して疾陸眷は北城を攻め、勒は城に登りて之を望み、其の將士を見るに或は仗を釋てて而して寝ねる。乃ち孔萇に命じて銳卒を督して突門より出でて之を撃つたしめ、城上より鼓譟して以て其の勢を助ける。萇は末杯を攻めて之を逐い、其の壘門に入り、勒の衆の獲る所と為り、疾陸眷等の軍は皆な退き走る。萇は勝ちに乗りて追撃し、屍は三十餘里に枕し、鎧馬五千匹を獲る。疾陸眷は其の餘衆を収め、還りて渚陽に屯す。

漢 ■ [石勒は段氏を心服させ、王浚衰退] 勒は末杯を質とし、遣使して和を疾陸眷に求め、疾陸眷は之を許す。文鴛は諫めて曰く、

「今末杯一人之故を以て而して亡ぶに垂々とする之虜を縦てば、王彭祖の怨む所と為り、後患を招くに無きを得ん乎！」

疾陸眷は従わず、復た鎧馬金銀を以て勒に賂し、且つ末杯の三弟を以て質と為し而して末杯を請う。諸將は皆な勒に末杯を殺すを勧め、勒は曰く、

「遼西の鮮卑は健國也、我と素より仇讎は無く、王浚の使う所と為る耳。今一人を殺して而して一國之怨みを結べば、計に非ざる也。之を歸せば、必ず深く我を徳とし、復た浚の用を為さず矣。」

乃ち厚く金帛を以て之に報い、石虎を遣わして疾陸眷と渚陽に盟さしめ、結びて兄弟と為る。疾陸眷は引きて歸り、王昌等は獨り留まる能わず、亦た兵を引いて薊に還る。勒は末杯を召し、之と與に燕飲し、誓いて父子と為り、遣りて遼西に還す。末杯は塗に在りて、日に南に向かい而して拜する者は三たびなり。是に由りて段氏は専ら心から勒に付き、王浚之勢いは遂に衰える。

■游綸、張豺は降を勒に請う。勒は信都を攻め、冀州刺史の王象を殺す。浚は復た邵舉を以て冀州刺史を行わしめ、信都を保つ。

■是の歳大疫す。

■ [王澄は王機と縱酒博奕し人望失う] 王澄は少くして兄の衍と與に名は海内に冠たり。劉琨は澄に謂つて曰く、

「卿は形は散朗なりと雖も、而して内實は動俠（心狭く動き易く、豪快に自ら喜ぶ）にして、此を以て處世し、其の死を得難からん。」

荊州に在るに及び、成都内史の王機を悦び、己の亞（亜流）為りと謂い、之をして内に心膂を綜べ、外に

爪牙と為さ使む。澄は屢々杜弼の敗る所と為り、望實（名望と実力）俱に損し、猶ほ傲然として自得し、憂懼之意無し、但だ機と日夜酒を縦にして博奕し、是に由りて上下は離心する；南平太守の應詹は屢々諫め、聽かず。

■ **[王澄は司馬睿の軍諮祭酒と為る]** 澄は自ら軍を出して杜弼を撃ち、作塘（南平郡の県、湖南省武陵道澧県、現・常德市澧県）に軍す。故の山簡參軍の王冲は衆を擁して應詹を迎えて刺史と為し、詹は冲の無頼なるを以て、之を棄て、南平（江安に治す、湖北省荊南道公安県、現・荊州市公安県）に還り、冲は乃ち刺史を自稱す。澄は懼れ、其の將の杜蕤をして江陵を守ら使め、徙りて孱陵（南平郡の県、湖北省荊南道公安県の南、現・現・荊州市公安県）に治し、尋いで又た沓中（孱陵の東）に奔る。別駕の郭舒は諫めて曰く、

「使君は州に臨み異政無しと雖も、（5-263p）然れども一州の人心の繋る所、今西は華容（南郡の県、湖北省荊南道藍利県の西北、現・荊州市藍利市）之兵を収めれば、以て此の小醜を擒にするに足らん、奈何して自ら棄て、遽に奔亡を為す乎！」

澄は従わず、舒を將いて東に下らんと欲す。舒は曰く、

「舒は萬里の紀綱（州の別駕なり）と為り、匡正する能わず、使君をして奔亡せ令め、誠に江を渡るに忍びず。」

乃ち留まりて沌口（湖北省江漢道漢陽県の西南、現・武漢市蔡甸区）に屯す。琅邪王の睿は之を聞き、澄を召して軍諮祭酒と為し、軍諮祭酒の周顥を以て之に代わらしめ、澄は乃ち召しに赴く。

■ **[杜弼は周顥を沔陽に襲い、陶侃ら迎撃]** 顥は始めて州に至り、建平の流民の傅密等は叛きて杜弼を迎え、弼の別將の王真は沔陽（湖北省江漢道沔陽県、現・仙桃市）を襲い、顥は狼狽して據を失う。征討都督の王敦は武昌太守の陶侃、尋陽太守の周訪、歴陽（惠帝永興元年に淮南の烏江・歴陽二県を分けて歴陽郡を置く）内史の甘卓を遣わして共に弼を撃たしめ、敦は進みて豫章に屯し、諸軍の繼援を為す。

■ **[王敦は王澄を誅殺、王機は廣州刺史を強奪]** 王澄は過りて敦に詣り、自ら名聲は素より敦の右に出るを以て、猶ほ舊意を以て敦を侮る。敦は怒り、其の杜弼と通信すると誣い、壯士を遣わして之を扼殺せしむ。王機は澄の死するを聞き、禍いを懼れ、其の父の毅（嘗て南越対策に貢献）、兄の矩は皆な嘗て廣州刺史と為るを以て、敦に就きて廣州を求め、敦は許さず。會々廣州の將の溫邵等は刺史の郭訥に叛き、機を迎えて刺史と為し、機は遂に奴客門生千餘人を將いて廣州に入る。訥は兵を遣わして之を拒み、將士は皆な機の父兄の時の部曲なり、戦わず迎え降り、訥は乃ち位を避け、州を以て之に授ける。

■ 王如の軍中は饑乏し、官軍は之を討ち、其の黨は多く降る。如は計窮まり、遂に王敦に降る。

■ 鎮東軍司の顧榮、前太子洗馬の衛玠は皆な卒す。玠は、瓊之孫也、風神は美しく、善く清談する。常に以為らく人及ばざる有れば、情を以て恕す可く、非意相い干せば、理を以て遣る可く、故に終身喜愠之色を見わさず。

■ **[張啟は王異を殺すも卒、向沈に代る]** 江陽（漢には犍為郡の属す、劉氏蜀は分けて江陽郡を置く、四川省永寧道瀘県、現・瀘州市瀘県）太守の張啟は、行益州刺史の王異（三府の事を行う、前卷五年）を殺して而して之に代わる。啟は、翼之孫也、尋いで病にて卒す。三府の文武は共に涪陵太守の向沈を表して西夷校尉を行わしめ、南に涪陵を保つ。

■ **[赤亭羌の姚弋仲は自立へ]** 南安（後漢の靈帝置く郡、甘肅省旧鞏昌府の地を統べる、甘肅省蘭山道隴西県、現・定西市隴西県）の赤亭（隴西県の西）の羌の姚弋仲は東に榆眉（扶風郡の県、陝西省關中道汧陽県、現・宝鶏市千陽県）に徙り、戎、夏は襁負して之に隨う者は數萬なり。自ら護羌校尉、雍州刺史、扶風公と稱す。

## 孝愍皇帝上建興元年（癸酉，313年）

漢 [劉聰は懷帝に酒を行わせ、誅殺] 春，正月，丁丑（1日）朔，漢主の聰は群臣と光極殿に宴し，（5-263p）懷帝をして青衣を著て酒を行わ使む。庾珽、王俊等は悲憤に勝たず，因りて號哭する。聰は之を惡む。告げる者有りく

「珽等は平陽を以て劉琨に應ぜんと謀る」

二月，丁未（1日），聰は珽、俊等の故の晉臣十餘人を殺し，懷帝（年30）も亦た害に遇う。大赦し，復た會稽の劉夫人（永嘉六年に懷帝に妻わした者）を以て貴人と為す。

■ [懷帝は太平ならば佳主] 荀崧曰く、

「懷帝の天姿は清劭（清く高く），少くして英猷（えいゆう）を著わし，若し承平（太平が続く世）に遇えば，守文の佳主と為るに足りん。而るに惠帝の擾亂之後を繼ぎ，東海は政を専らにし，故に幽、厲之釁無く而して流亡之禍有り矣！」

漢 乙亥（29日），漢の太后の張氏は卒す，諡して光獻と曰う。張后（張太后の姪女）は哀しみに勝えず，丁丑（31日?），亦た卒す，諡して武孝と曰う。

漢 己卯（33日?），漢の定襄の忠穆公の王彰は卒す。

漢 [劉聰は諫言の陳元達を殺さんとす] 三月，漢主の聰は貴嬪の劉娥を立てて皇后と為し，之が為に [皇鳥] 儀殿を起こす。廷尉の陳元達は切諫して，以て為す、

「天は民を生じ而して之が君を樹て，之を司牧せ使め，兆民之命を以て，一人之欲を窮めるに非ざる也。晉氏は徳を失い，大漢は之を受け，蒼生は領を引き，肩を息めんを庶幾う。是を以て光文皇帝（劉淵）は身に大布を衣，居には重茵（褥を重ねる）無く，后妃は錦綺を衣せず，乘輿馬は粟を食まずは，民を愛する故也。陛下は踐阼以來，已に殿觀四十餘所を作り，之に加えて軍旅は數々興こり，餽運は息まず，饑饉、疾疫，死亡は相繼ぎ，而して益々營繕を思い，豈に民の父母為る之意ある乎！今晉の遺類（まだ討伐されない殘党）有り，西は關中に據り，南は江表を擅にす。李雄は巴、蜀を奄有す。王浚、劉琨は肘腋を窺窺す；石勒、曹嶷は稟（詔命を稟承）を貢（貢獻）ぐに漸く疏なり。陛下は此を釋てて憂えず，乃ち更に中宮の為に殿を作るは，豈に目前之急する所を乎！昔太宗（15卷漢の文帝七年）は治安之世に居り，粟帛は流衍し，猶ほ百金之費を愛み，露台之役を息める。陛下は荒亂之餘を承けて，所有之地は，太宗之二郡（劉聰の支配領域は漢の河東西河の二郡のみ）に過ぎず，戰守之備えは，特に匈奴、南越（漢の文帝の時は匈奴南越のみに備えた）に非ず而して已む。而るに宮室之侈りは乃ち此に至る，臣の敢えて死を冒し而して言わざるにあらざる所以也。」

聰は大いに怒りて曰く、

「朕は天子と為り，一殿を營む，何ぞ汝鼠子に問（続は關）せん乎，乃ち敢えて妄言して衆を沮むや！此の鼠子を殺さざれば，朕が殿は成らず！」

左右に命じる、

「曳き出して之を斬れ！其の妻子を并せて同じく東市に梟首し，群鼠をして穴を共にせ使めよ！」

時に聰は逍遙園の李中堂に在り，元達は先ず腰に鎖し而して入り，即ち鎖を以て堂下の樹に鎖して，呼びて曰く、

「臣が言う所者，社稷之計なり，而るに陛下は臣を殺す。朱雲に言有り（32卷漢の成帝元延元年）：『臣は龍逢、比干と遊ぶを得れば，足る矣！』」

左右は之を曳いて動く能わず。

漢【任顓らは助命嘆願】大司徒の任顓、光祿大夫の朱紀、范隆、驃騎大將軍の河間王の易等は（5-265p）

叩頭出血して曰く：

「元達は先帝の知る所と為り（85 卷惠帝永興元年に見える）、命を承ける之初め、即ち引きて門下に置き、忠を盡くし慮りを竭くし、知れば言わざる無し。臣等は祿を竊み安を偷み、之を見る毎に未だ嘗て愧を發せざればならず。今言う所は狂直と雖も、願はくは陛下は之を容れよ。諫諍に因り而して列卿を斬れば、其れ後世を如何せん！」

聰は默然とする。

漢【劉後の果敢な上疏】劉後は之を聞き、密かに左右に敕して刑を停めしめ、手ずから疏して上言す、

「今宮室は已に備わり、更に營むを煩わす無かれ、四海は未だ壹ならず、宜しく民力を愛しむべし。廷尉之言は、社稷之福也、陛下は宜しく封賞を加えるべし。而るに更に之を誅すれば、四海は陛下を何如と謂う哉！夫れ忠臣の進みて諫める者は固より其の身を顧みざる也、而るに人主が諫めを拒む者は亦た其の身を顧みざる也。陛下は妾の為に殿を營し而して諫臣を殺す、忠良をして舌を結ば使む者は妾に由り、遠近の怨怒する者は妾に由り、公私の困弊する者は妾に由り、社稷の厝危（危くして墜らんとする）する者は妾に由り、天下之罪は皆な妾に萃あつまらん、妾は何を以て之に當たらん！妾は古より國敗れ家を喪うを觀れば、未だ始め婦人に由らざるにあらず、心は常に之を疾む。意わず今日身自ら之と為り、後世をして妾を視て妾之昔の人を視る由がごとくなら使めん也！妾は誠に面目の復た巾櫛に奉じる無し、願はくは此の堂に死を賜わらん、以て陛下之過ちを塞がん！」

聰は之を覽じて色を變える。

漢【外輔は元達、内輔は后】任顓等は叩頭流涕して已まず。聰は徐ろに曰く、

「朕は比年已來、微かに風疾（精神的病）を得、喜怒は差に過ぎ、復た自ら制せず。元達は、忠臣也。朕は未だ之を察せず。諸公は乃ち能く首を破りて之を明かにし、誠に輔弼之義を得る也。朕は愧じて心に戢おさ（藏）め、何の敢て之を忘れるや！」

顓等に命じて冠履して坐に就かしめ、元達を引きて（堂に）上らしめ、劉氏の表を以て之に示して、曰く、

「外輔は公の如く、内輔は後の如し、朕は復た何をか憂えんや！」

顓等に穀帛を賜わるに各々差有り、更めて逍遙園なつを命じて納賢園と曰い、李中堂を愧賢堂と曰う。聰は元達到謂って曰く、

「卿は當に朕を畏るべし、而るに反りて朕をして卿を畏ら使むる邪！」

■大成西夷校尉の向沈は卒し、衆は汝山太守の蘭維を推して西夷校尉と為す。維は吏民を帥いて北に出で、巴東（晉に帰らんとする）に向かわんと欲す。成將の李恭、費黑は邀え撃ちて、之を獲る。

### 【愍帝は懷帝の死を承けて即位】

■【愍帝は長安で即位】夏，四月，丙午（1日），懷帝の凶問は長安に至り、皇太子の舉は哀しみ、因りて元服を加える。壬申（21日），皇帝（愍帝）に即位し、大赦し、改元（建興）す。衛將軍の梁芬を以て司徒と為し、雍州刺史の麴允を尚書左僕射と為し、尚書事を録さしめ、京兆太守の索綝を尚書右僕射と為し、吏部、京兆尹を領さしむ。是の時長安の城中は、戸は百に盈たず、蒿棘は林を成す。公私に車は四乘有り、百官は章服、印綬無く、唯だ桑版署號し而して已む。尋いで索綝を以て衛將軍と為し、太尉、軍國之事を領せしめ、悉く以て之に委ねる。（5-266p）

**漢** **【劉曜は長安を攻める】** 漢の中山王の**曜**、司隸校尉の**喬智明**は長安を寇し、平西將軍の**趙染**は衆を帥いて之に赴く。**麴允**に詔して**黃白城**（前趙載記に**黃白城**、晉書本紀には**清白城**、陝西省關中道内の位置不明）に屯し以て之を拒ましむ。

**漢** **【石勒は鄴を攻め、石虎駐屯】** **石勒**は**石虎**をして鄴を攻め使め、鄴は潰え、**劉演**は廩丘（漢陽国の県、山東省濟寧道嶧県、現・棗莊市嶧城区）に奔り、三台の流民は皆な**勒**に降る。**勒**は**桃豹**を以て魏郡太守と為し以て之を撫さしむ。之久しく、**石虎**を以て**豹**に代わりて鄴に鎮ぜしむ。

■ **【三人の兗州刺史並立】** 初め、**劉琨**は陳留太守の**焦求**を用いて兗州刺史と為し、**荀籛**は又た**李述**を用いて兗州刺史と為す。**述**は**求**を攻めんと欲し、**琨**は**求**を召して還らしむ。鄴城の守りを失うに及びて、**琨**は復た**劉演**を以て兗州刺史と為し、廩丘に鎮ぜしむ。前中書侍郎の**郗鑒**は、少くして清節を以て著名なり、高平の千餘家を帥いて亂を避けて嶧山（=鄒山、山東省濟寧道嶧県の東南、現・棗莊市嶧城区）を保ち、琅邪王の**睿**は就きて**鑒**を用いて兗州刺史と為し、鄒山（現・濟寧市鄒城市）に鎮せしむ。三人は各々一郡に屯し、兗州吏民は従う所を知る莫し。

### 【司馬睿陣營の充実】

■ **【周馥は反するや司馬睿と華譚の議論】** 琅邪王の**睿**は前廬江内史の**華譚**を以て軍咨祭酒（参謀）と為す。**譚**は嘗て壽春に在りて**周馥**に依る。**睿**は**譚**に謂って曰く、

「**周祖宣**（**周馥**の字）は何が故に反するや？」

**譚**は曰く、

「**周馥**は死すると雖も、天下に尚ほ直言之士有り。**馥**は寇賊の滋く蔓するを見（前卷永寧四年・五年）、都を移して以て國難を紓めんと欲し、執政悦ばず、兵を興して之を討ち、**馥**は死して未だ時を逾えず而して洛都は淪没せり。若し之を反すると謂えば、亦た誣いず乎！」

**睿**は曰く、

「**馥**の位は征鎮と為り、強兵を握り、之を召せども入らず、危うし而れども持せず、亦た天下之罪人也。」

**譚**は曰く、

「然れども、危うし而れども持せざるは、當に天下と共に其の責を受けるべし、但だ**馥**のみに非ざる也。」

■ **【司馬睿の参佐陳頽は正論で左遷】** **睿**の参佐は多く事を避けて自ら逸し、録事参軍（衆曹を総録し文案を管する）の**陳頽**は**睿**に言つて曰く、

「洛中は承平之時には、朝士は小心恭恪（恭敬謹慎）なるを以て凡俗と為し、**偃蹇**（世俗を超越）**倨肆**（驕り気儘）なるを以て優雅と為し、流風相い染まり、以て國を敗るに至る。今僚屬は皆な西台（江東・洛陽）の餘弊（弊害の流れ）を承け、望みを養うに自ら高くする。是れ前車の已に覆えり而して後車も又た將に之に尋がんとする也。請う自今は使いに臨みて疾を稱する者は、皆な免官せん。」

**睿**は従わず。三王之趙王の**倫**を誅する也（84卷永嘉元年）、《己亥格》を制し以て功を賞す、是より循い而して之を用いる。**頽**は上言す、

「昔**趙王**は篡逆し、**惠皇**は位を失う、三王は兵を起こして之を討ち、故に厚く賞し以て義に向かう之心を懐かしむ。今功は大小と無く、皆な格を以て斷じ、乃ち**金紫**（金印紫綬）を士卒之身に佩（帯）びさせ、符策（制符と鞭）を僕隸之門に委ねるに至る、名器を重んじ、紀綱を正す所以に非ざる也、請う一切之を停めるべし！」

**頽**は寒微より出でて、數々正論を為し、府中は多く之を惡み、**頽**を出して譙郡太守と為す。（5-267p）

■ **[周玘の周繹への遺言]** 吳興太守の周玘は、宗族が強盛にして、琅邪王の睿は頗る之を疑いて憚る。睿の左右の事を用いる者は、多く中州の官を亡くし守りを失う之士にして、吳人を駕御し、吳人は頗る怨む。玘は自らおもに職を失い、又た刁協の輕んじる所と為り、恥いかじ悲ること愈々甚しく、乃ち陰ひそかに其の黨と執政を誅し、諸々の南士を以て之に代えんと謀る。事は洩れ、玘は憂憤し而して卒す。將に死せんとし、其の子の繹に謂って曰く、

「我を殺す者は、諸々の僮子（吳人は中州出身者を僮子という）也。能く之を復（報復）せば、乃ち吾が子也。」

**[漢]**石勒は李憚（乞活）を上白（安平の廣宗県に在り、直隸省大名道威県、現・邢台市威県）に攻め、之を斬る。王浚は復た薄盛（乞活）を以て青州刺史と為す。

■▲ **[王浚と段疾陸眷の戦い、慕容廆・拓跋猗盧参戦]** 王浚は秦嵩そうそうをして諸軍を督して易水に屯せしめ、段疾陸眷を召し、之と共に石勒を撃たんと欲す。疾陸眷（石勒が弟末杯を助けた恩義で会さず）は至らず、浚は怒り、重幣を以て拓跋猗盧に賂し、並びに慕容廆等に檄して共に疾陸眷を討つ。猗盧は右賢王の六修を使わして兵を將いて之に會さしめ、疾陸眷の敗る所と為る。廆は慕容翰を遣わして段氏を攻め、徒河（県、奉天省遼瀋道錦県の西北、現・錦州市徒河縣）の新城を取り、陽樂（遼西郡の県、直隸省津海道盧龍県の東、現・秦皇島市盧龍縣）に至り、六修が敗れるを聞き而して還る、翰は因りて留まりて徒河に鎮し、青山に壁す。

▲ **[慕容廆の幕営の俊才]** 初め、中國の士民の亂を避ける者は、多く北に王浚に依り、浚は存撫する能わず、又た政法は立たず、士民は往往として復た之を去る。段氏兄弟は専ら武勇を尚び、士大夫に禮せず。唯だ慕容廆は政事修明にして、人物を愛重し、故に士民は多く之に歸す。廆は其の英俊を擧げ、才に隨いて任を授け、河東の裴嶷、北平の陽耽、廬江の黃泓、代郡の魯昌を以て謀主と為し、廣平の游邃、北海の逢羨、北平西の方虔、西河の宋爽及び封抽、裴開を股肱と為し、平原の宋該、安定の皇甫岌、岌の弟の真、蘭陵の繆愷、昌黎の劉斌及び封奔、封裕は機要を典る。裕は、抽之子也。

■▲ **[高句麗] 裴嶷は慕容廆に歸す、樂浪郡陥落** 裴嶷は清方にして干略（才幹謀略）有り、昌黎太守と為り、兄の武は玄菟太守と為る。武は卒し、嶷は武の子の開と其の喪を以て歸り、廆を過よぎり（玄菟より西に歸り棘城を過ぎる）、廆は敬いて之を禮し、去るに及びて、厚く資を加えて送る。行きて遼西に及び、道は通じず、嶷は還りて廆に就かんと欲す。開は曰く、

「郷里は南に在り、奈何ぞ北に行くや！且つ等しく流寓と為れば、段氏は強く、慕容氏は弱く、何ぞ必ずしも此を去り而して彼に就く也！」

嶷は曰く、

「中國は喪亂し、今往きて之に就けば、是れ相い帥い而して虎口に入る也。且つ道は遠く（昌黎は河東より遠く道は塞がる）、何に由りてか達す可き！若し其の清通するを俟てば（天下が乱れて道が開く見込み無し）、又た歲月は冀う可きに非らず。今足を托する之地を求めんと欲すれば、豈に慎んで其の人を擇ばざる可けんや。汝は諸々の段を觀るに、豈に遠略有り、且つ能く國士を待たん乎！慕容公は仁を修め義を行ひ、霸王之志有り、加えるに國豊かに民安んじるを以て、今往きて之に従えば、高きは以て功名を立てる可く、(5-268p) 下は以て宗族を庇かばう可きは、汝は何ぞ焉を疑うや！」

開は乃ち之に従う。既に至り、廆は大いに喜ぶ。陽耽は清直沈敏にして、遼西太守と為る。慕容翰は段氏を陽樂に破り、之を獲り、廆は禮し而して之を用いる。游邃、逢羨、宋爽は、皆な嘗て昌黎太守と為り、黃泓と俱に地を薊に避け、後に廆に歸す。王浚は屢々手書を以て邃の兄の暢を召き、暢は之に赴かんと欲

す、**邃**は曰く、

「**彭祖** (王浚) は刑政修まらず、**華戎** (中国と夷狄) は離叛す。**邃**を以て之を度るに、必らず久しくす能わず、兄は且く盤桓 (進まない) して以て之を俟つべし。」

**暢**は曰く、

「**彭祖**は忍び而して疑い多く、**頃者**流民は北に來れば、所在に命じて追いて之を殺す。今手書は殷勤なり、我は稽留して往かざれば、將に累は卿に及ぼんとす。且つ亂世には宗族は宜しく分かれて (リスクヘッジ)、以て種を遺さんを冀う。」

遂に之に従い、卒に**浚**と俱に没す。**宋該**は平原の**杜群**、**劉翔**と先に**王浚**に依り、又た**段氏**に依り、皆な以て托するに足らずと為し、諸々の流寓を帥いて同じく**麴**に歸す。東夷校尉の**崔毖**は**皇甫岌**を請いて長史と為さんとし、辭を卑しくして説諭すれども、終に致る能う莫し。**麴**は之を招き、**岌**は弟の**真**と即時に俱に至る。

### 【樂浪郡滅亡】

▲**高句麗** [樂浪帶方の張統は慕容廆に歸し、樂浪郡滅亡] 遼東の**張統**は樂浪、帶方二郡に據り、高句麗王の**乙弗利** (美川王) と相い攻め、連年解かず。樂浪の**王遵**は統を説いて其の民千餘家を帥いて**廆**に歸し、**廆**は之が為に樂浪郡を置き、統を以て太守と為し、遵を軍事に參ぜしむ。

■ [漢中の張光の戦い] **王如**の餘黨の涪陵の**李運**、巴西の**王建**等は襄陽より三千餘家を將いて漢中に入り、梁州刺史の**張光**は參軍の**晉邈**を遣わして兵を將いて之を拒ましむ。**邈**は**運**、**建**の賂いを受け、**光**に其の降を納れるを勧め、**光**は之に従う、成固 (陝西省漢中道城固県西北十八里、現・漢中市城固県) に居ら使む。既に而して**邈**は**運**、**建**及び其の徒が珍寶多きを見、盡く之を取らんと欲し、復た**光**を説いて曰く、

「**運**、**建**之徒は、農事を修めず、専ら器仗を治め、其の意は測り難し、悉く之を掩殺するに如かず。然らずんば、必ず亂を為さん。」

**光**は又た之に従う。**五月**、**邈**は兵を將いて**運**、**建**を攻め、之を殺し。**建**の嬖の**楊虎**は餘衆を収めて**光**を撃ち、厄水 (陝西省漢中道城固縣に在り) に屯す。**光**は其の子の**孟萇**を遣わして之を討つも、克たず。

■ [司馬睿を左丞相、司馬保を右丞相] **壬辰** (18日)、琅邪王の**睿**を以て左丞相、大都督と為し、陝東の諸軍事を督せしむ。南陽王の**保**を右丞相、大都督と為し、陝西の諸軍事を督せしむ。詔して曰く、

「今當に**鯨鯢** (魁傑な強敵の譬え、鯨、大悪人・悪党の頭領、将棋の駒の種類の一つ) を掃除し、梓宮 (懷帝は平陽で殺され、梓宮はまだ帰らず) を奉迎すべし。幽、并兩州に令して卒三十萬を勒して直ちに平陽に造らしむべし、右丞相は宜しく秦、涼、梁、雍之師三十萬を帥いて徑ちに長安に詣るべし、左丞相は所領の精兵二十萬を帥いて徑ちに洛陽に造るべし、同じく大期に赴き、克く元勳を成せ。」

漢漢の中山王の**曜**は蒲板に屯す。(5-269p)

漢 [石勒は山東に勢力拡大] **石勒**は**孔萇**をして定陵 (襄城郡の県、河南省開封道襄城県、現・許昌市襄城県) を撃た使め、**田徽** (王浚は田徽を兗州刺史とする) を殺す。**薄盛**は所部を帥いて**勒**に降り、山東の郡縣は、相い繼いで**勒**の取る所と為る。漢主の**聰**は**勒**を以て侍中、征東大將軍と為す。烏桓は亦た**王浚**に叛し、潛かに**勒**に附く。

■ [劉琨は平陽近郊まで攻めるも撤退] **六月**、**劉琨**は代公の**猗盧**と陜北に會し、漢を撃たんと謀る。**秋**、

七月、**琨**は進みて藍谷に據り、**猗盧**は**拓跋普根**を遣わして北屈（平陽郡の県、山西省河東道吉県の東21里、現・臨汾市吉県）に屯せしむ。**琨**は監軍の**韓據**を遣わして西河より而して南し、將に西平（平陽の西、劉聰は濟南王驥に城築かす）を攻めんとする。漢主の**聰**は大將軍の**黎**等を遣わして**琨**を拒ましめ、驃騎將軍の**易**等をして**普根**を拒ましめ、蕩晉將軍の**蘭陽**等をして助けて西平を守らしむ。**琨**等は之を聞き、兵を引いて還る。**聰**は諸軍をして仍って所在に屯し、進取之計を為さしむ。

■ **[司馬睿は江東の平定に専念]** 帝は殿中都尉の**劉蜀**を遣わして左丞相の**睿**に詔して時を以て進軍し、乘輿と會し中原を除（はら（文字無し、続の除を採用））わしむ。八月、癸亥（20日）、**蜀**は建康（建業）に至り、**睿**は辭するに方に江東を平定せんとし、未だ北伐する暇なしと以てす。鎮東長史の**刁協**を以て丞相左長史と為し、從事中郎の彭城の**劉隗**を司直と為し、邵陵（吳の孫皓は寶鼎元年に零陵北部都尉を分けて邵陵郡を置く、湖南省湘江道寶慶県、現・邵陽市邵陽県）内史の廣陵の**戴邈**を軍咨祭酒と為し、參軍の丹楊の**張闔**を從事中郎と為し、尚書郎の穎川の**鐘雅**を記室參軍と為し、譙國の**桓宣**を舍人と為し、豫章の**熊運**を主簿と為し、會稽の**孔愉**を掾と為す。**劉隗**は雅より文史に習い、善く**睿**の意を伺候し、故に**睿**は特に親しく之を愛す。**熊遠**は上書し、以て為す、

「軍を興して以來、事を處するに律令を用いず、競いて新意を作り、事に臨みて制を立て、朝に作り夕に改め、主者は敢て法に任ぜず、毎に輒ち關諮（上申して諮問）するに至る、政を為す之體に非ざる也。愚は謂うに凡そ駁議を為す者は、皆な當に律令、經傳を引くべし、直ちに情を以て言い、依準する所無くして、以て舊典を虧くを得ざるべし。若し開塞宜しきに隨い、權道が物を制すれば、此は是れ人君之行うを得る所なりて、臣子の宜しく専ら用いる所に非ざる也。」

**睿**は時を以て方に多事にして、従う能わず。（2021-1116）

■ **[祖逖一人北伐の途に就く]** 初め、范陽（漢の涿郡を魏の文帝が改名）の**祖逖**は、少くして大志有り、**劉琨**と俱に司州の主簿と為る。同じく寝ね、中夜に雞鳴を聞き、**琨**を蹴りて覺まして曰く、

「此れは惡聲に非らざる也！」

因りて起ちて舞う。江を渡るに及び、左丞相の**睿**は以て軍咨祭酒と為す。**逖**は京口（江蘇省金陵道丹陽県、現・鎮江市京口区）に居り、驍健を糾合し、**睿**に言つて曰く、

「晉室之亂れるは、上が無道（続、道x）に而して下が怨み叛くに非ざる也、宗室は權を争い、自ら相い魚肉（磨り潰す）とするに由り、遂に戎狄をして隙に乗らしめ、毒は中土に流れる。今遺民は既に殘賊に遭い、人は自ら奮わんことを思う、大王は誠に能く將に命じて師を出し、**逖**の如き者をして之を統べしめて以て中原を復せば、郡國の豪傑は、必ず風を望みて響應する者有り矣！」

**睿**は素より北伐之志は無く、**逖**を以て奮威將軍、豫州刺史と為し、千人の廩（糧食）、布三千匹を給し、（5-270p）鎧仗を給せず、自ら召募せしむ。**逖**は其の部曲百餘家を將いて江を渡り、中流にして、楫を撃ち而して誓いて曰く、

「**祖逖**は中原を清める能わず而して復た濟る者は、大江の如き有らん！」（中原を平定しなければ二度と江を渡らない）

遂に淮陰（江蘇省淮揚道淮陰県、現・淮安市淮陰区）に屯し、冶を起し兵を鑄、募りて二千餘人を得て而して後に進む。

■ **[杜曾は胡亢を殺害]** 胡亢は性は猜忌にして、其の驍將數人を殺す。杜曾是懼れ、ひそかに王冲（荊州の賊）之兵を引きて亢を攻めしむ。亢は精兵を悉くして出でて之を拒み、城中は空虛にして、曾は困りて亢を殺

し而して其の衆を並せる。

■ **[陶侃は周顒を杜弼から救出]** 周顒は潯水城（湖北省江漢道黃梅縣の界の江北、現・黃岡市黃梅縣）に屯し、杜弼のくる困しむ所と為る。陶侃は明威將軍の朱伺をして之を救わしめ、弼は退きて冷口（冷水の河口、湖北省旧武昌府内）を保つ。侃は曰く、

「弼は必ず歩いて武昌に向かわん。」

乃ち徑道（近道）より郡に還り以て之を待つ、弼は果たして來攻する。侃は朱伺をして逆撃せしめ、大いに之を破り、弼は遁げて長沙に歸る。周顒は潯水を出て王敦に豫章にて投じ、敦は之を留める。陶侃は參軍の王貢をして捷を敦に告げしめ、敦は曰く、

「若し陶侯無ければ、便ち荊州を失わん矣！」

乃ち侃を表して荊州刺史と為し、沔江（続は沔口、漢水と沔水は本一水なり、漢水が江の入る所を沔口、湖北省漢口）に屯せしむ。左丞相の睿は周顒を召し、復た以て軍諮祭酒と為す。

氏 **[楊難敵・張光などの複雑な駆け引き]** 初め、氏王の楊茂搜之子の難敵は、養子を遣わして梁州に販易し、ひそか私に良人の子一人を賣り、張光は鞭ちて之を殺す。難敵は怨んで曰く、

「使君は初めて來たるや、大荒之後にして、兵民之命、我が氏の活を仰ぐ、(而るに今) 氏に小罪有れば、ゆる貰(貸す)す能わざる也？」

光は楊虎と相い攻めるに及び、各々救いを茂搜に求め、茂搜は難敵を遣わして光を救わしむ。難敵は貨を光に求め、光は與えず。楊虎は厚く難敵に賂し、且つ曰く、

「流民の珍貨（晉邈が殺して奪う所の者）は、悉く光の所に在り、今我を伐つは、光を伐つに如かず。」

難敵は大いに喜ぶ。光は虎と戦い、張孟葦をして前に居らしめ、難敵をして後に繼がしむ。難敵は虎と夾みて孟葦を撃ち、大いに之を破り、孟葦及び其の弟の援は皆な死す。光は城を嬰して自ら守る。九月、光は憤激して疾いを成す、僚屬は光に退きて魏興に據るを勧める。光（張光は晉邈を信用して寇を致すと雖も、その氣烈は尚ぶべし）は劍を按じて曰く、

「吾は國の重任を受け、賊を討つ能わず、今死を得ること登仙（続は登遷）するが如し、何ぞ退ぞくを謂う也！」

聲絶え而して卒す。州人は其の少子の邁を推して州事を領せしめ、又た氏と戦いて没し、衆は始平太守の鬍子（続は胡子）の序を推して梁州を領せしむ。

■ 荀籛は開封に薨ず。

漢 **[劉曜は黃白城を攻める]** 漢の中山王の曜、趙染は麴允を黃白城（陝西省關中道涇陽縣の西北、現・咸陽市涇陽縣）に攻め、允は累々戦い皆な敗れ、詔して索綝を以て征東大將軍と為し、兵を將いて允を助けしむ。

(5-270p)

■ **[王貢・杜曾の乱と陶侃・周訪の反撃]** 王貢は王敦の所より還り、竟陵に至り、陶侃之命を矯め、杜曾を以て前鋒大都督と為し、王冲を撃ち、之を斬り、悉く其の衆を降す。侃は曾を召し、曾は至らず。貢は命を矯めるを以て罪を獲るを恐れ、遂に曾と與に反して侃を撃つ。冬、十月、侃の兵は大いに敗れ、僅かに身を以て免る。敦は侃を表して白衣を以て職を領せしむ。侃は復た周訪等を帥いて進みて杜弼を攻め、大いに之を破り、敦は乃ち奏して侃の官を復す。

漢 **[趙染は長安を襲撃]** 漢の趙染は中山王の曜に謂って曰く、

「**麴允**は大衆を帥いて外に在り、長安は空虚にして、襲う可き也。」

**曜**は**染**をして精騎五千を帥いて長安を襲わしめ、庚寅（48日?）夜、外城に入る。**帝**は射雁樓に奔る。**染**は龍尾（城に依りて道を築き、陂陁として漸く高く、陣に登るに由る所の路）及び諸營を焚き、千餘人を殺掠す。辛卯（49日?）旦、退きて逍遙園（陝西省關中道長安県の西北、現・西安市長安区）に屯す。壬辰（50日?）、將軍の**麴璆**は阿城（秦の阿房宮城）より衆五千を帥いて長安を救う。癸巳（51日?）、**染**は引いて還り、**璆**は之を追い、**曜**と零武（陝西省關中道旧西安府内）に遇い、**璆**の兵は大いに敗る。

**氏** **[楊難敵は梁州刺史自稱]** **楊虎**、**楊難敵**は急に梁州を攻め、鬍子の**序**は城を棄てて走り、**難敵**は刺史を自稱する。

**漢** **[劉曜は敗れ平陽帰還]** 漢の中山王の**曜**は勝ちに恃み而して備えを設けず。**十一月**、**麴允**は兵を引いて之を襲い、漢兵は大いに敗れ、其の冠軍將軍の**喬智明**を殺す。**曜**は引いて平陽に歸る。

■▲ **[王浚は尊號をせんと謀る]** **王浚**は其の父の字が**處道**なるを以て、自ら「當塗高」之讖に應ずると謂い、尊號を稱せんと謀る。前勃海太守の**劉亮**、北海太守の**王搏**、司空の掾の**高柔**（魏の高柔とは別の人）は切諫し、**浚**は皆な之を殺す。燕國の**霍原**は、志節は清く高く、屢々征辟を辭す。**浚**は尊號の事を以て之を問ひ、**原**は答えず。**浚**は**原**が群盜と通じると誣い、殺し而して其の首を梟す。是に於いて士民は駭き怨み、而して**浚**は矜豪なること日に甚しく、親ら政事せず、任ずる所は皆な苛刻の小人にして、**棗嵩**、**朱碩**は、貪横は尤も甚し。北州の謠いに曰く、

「府中は赫赫とし、**朱丘伯**（**朱碩**の字）、**十囊**、**五囊**、**棗郎**（**棗嵩**は**王浚**の婿）に入る。」

調發は殷煩にして、下は命に堪えず、多く叛きて鮮卑に入る。従事の**韓賊**は柳城（遼西の県、熱河道浚源県、現・朝陽市）を監護し、盛んに**慕容廆**が能く士民を接納するを稱し、以て**浚**を諷せんと欲す。**浚**は怒り、之を殺す。

**漢** **[張賓は石勒に王浚の調略方法を伝授]** **浚**は始め者唯だ鮮卑、烏桓を恃み以て強と為る、既に而して皆な之に叛く。加えて蝗旱は連年なるを以て、兵勢は益々弱し。**石勒**は之を襲わんと欲し、未だ虚實を知らず、將に遣使して之を覘わしめんとし、參佐は**羊祜**、**陸抗**の故事（敵国相い交わるの禮を用いと欲す）を用い、書を**浚**に致すを請う。**勒**は以て**張賓**に問ひ、**賓**は曰く、

「**浚**は名は晋臣ひ為り、實は晋を廢して自立せんと欲し、但だ四海の英雄の之に従う莫きを患うる耳。其の將軍（**石勒**を指す）を得んと欲するは、猶ほ**項羽**之**韓信**を得んと欲すがごとき也。將軍の威は天下に振り、今辭を卑くして禮を厚くし、節を折りて之に事えれば、猶ほ信じざらんことを懼る、況んや**羊**、**陸**之冗齷を為すを乎！（5-272p）夫れ人を謀りて而して人をして其の情を覺ら使むるは、以て志を得難し矣。」

**勒**は曰く、

「善し！」

**漢** **[石勒は王浚に王子春派遣]** **十二月**、**勒**は舍人の**王子春**、**董肇**を遣わして多く珍寶を繼ぎ、表を**浚**に奉じて曰く、

「**勒**は本は小胡なり、世の饑亂に遭い、流離は屯厄（屯難災厄）し、命を冀州に竄れ、竊かに相い保聚して以て性命を救う。今晋祚は淪夷し、中原に主無し。**殿下**は州郷の貴望にして、四海の宗する所、帝王と為る者は、公に非ずして復た誰をや！**勒**が軀を捐て兵を起こし、暴亂を誅討する所以の者は、正に**殿下**の為に驅除するのみ爾。伏して願わくは**殿下**は天に應じ人に順い、早く皇祚に登るべし。**勒**が**殿下**を奉戴するは天

地父母の如し、**殿下**は**勒**の微心を察し、亦た當に之が子の如しを視るべき也。」

又は**棗嵩**に書を遺り、厚く之に賂する。

■ **[王浚は巧妙な石勒を疑わず]** **浚**は**段疾陸眷**の新たに叛き、士民は多く己を棄てて去るを以て、**勒**の之に附かんと欲するを聞き、甚だ喜び、**子春**に謂って曰く、

「**石公**は一時の英傑なり、**趙**、**魏**に據有し、乃ち孤に稱藩せんと欲するは、其の信ずる可き乎？」

**子春**は曰く、

「**石將軍**の才力は強盛にして、誠は聖旨の如し。但だ以うに**殿下**の中州の貴望にして、威は夷、夏に行われ、古より胡人の輔佐の名臣と為るは則ち有り矣、未だ**帝王**と為る者は有らざる也。**石將軍**は**帝王**を惡みて為らず而して**殿下**に讓るに非ざるなり、顧るに**帝王**は自ら歴數有り、智力之取る所に非ず、強いて之を取ると雖も、必ず天人之與する所と為さざるを以てす故也。**項羽**は強しと雖も、終に漢の有と為る。**石將軍**之**殿下**に比べれば、猶ほ陰精之太陽と與けるがごとし、是くを以て遠く前事を鑒み、身を**殿下**に歸し、此れは乃ち**石將軍**之明識は遠く人に過ぎる所以也、**殿下**は又た何を怪しむ乎！」

**浚**は大いに悦び、**子春**、**鞏**を封じて皆な列侯と為し、遣使して報聘し、厚幣を以て之に酬いる。**游綸**（范郷に保據して偽りて**石勒**に降り、**勒**は已に襲いて擒とす）の兄の**統**は、**浚**の司馬と為り、**范陽**に鎮し、遣使して私に**勒**に附く。**勒**は其の使いを斬りて以て**浚**に送る。**浚**は**統**を罪せずと雖も、益々**勒**が忠誠を為すと信じて、復て疑う無し矣。

■ 是の歳、左丞相の**睿**は世子の**紹**を遣わして**廣陵**に鎮せしめ、丞相の掾の**蔡謨**を以て參軍と為す。**謨**は、**克**之子也。

漢 **[劉曜は魏浚を石梁に囲む]** 漢の中山王の**曜**は河南尹の**魏浚**を石梁（統は石梁、洛水の北）に圍み、兗州刺史の**劉演**、河内太守の**郭默**は兵を遣わして之を救い、**曜**は兵を分けて河北に逆え戦い、之を敗る。**浚**は夜走り、獲り而して之を殺す。

代 代公の**猗盧**は**盛樂**（綏遠和林格爾県、現・フフホト市ホリソル県）に城きづきて以て北都と為し、故の平城（山西省雁門道大同県、現・大同市）を治めて南都と為す。又た新平城を灑水（沙河、源は直隸省遵化県の北で西南流して梨河に入る）之陽きたに作り、右賢王の**六修**をして之に鎮し、南部を統領せ使む。

令和3年6月14日 翻訳開始 11280 文字

令和3年6月24日 翻訳終了 22933 文字、現代地名・年表対応

令和3年11月16日 書下し終了 23066 文字